

漁業調査船「とくしま」が再び気象庁長官に表彰されました

海洋生産技術担当 住友 寿明

Key word; 漁業調査船、海洋表層水温、海洋観測

はじめに

水産研究課の漁業調査船「とくしま」(写真1)は、多年にわたり海洋の表層水温の観測通報に積極的に協力し、気象業務の発展に寄与した功績により、気象庁長官から感謝状をいただきました(写真2)。

この感謝状は、毎年6月1日に開催される気象記念日の式典において、気象関係業務に功績のあった者に対し、気象庁長官が贈呈するものです。

なお、漁業調査船「とくしま」が、気象庁長官から感謝状をいただいたのは、平成24年に続き2回目となります。



写真1. 漁業調査船「とくしま」

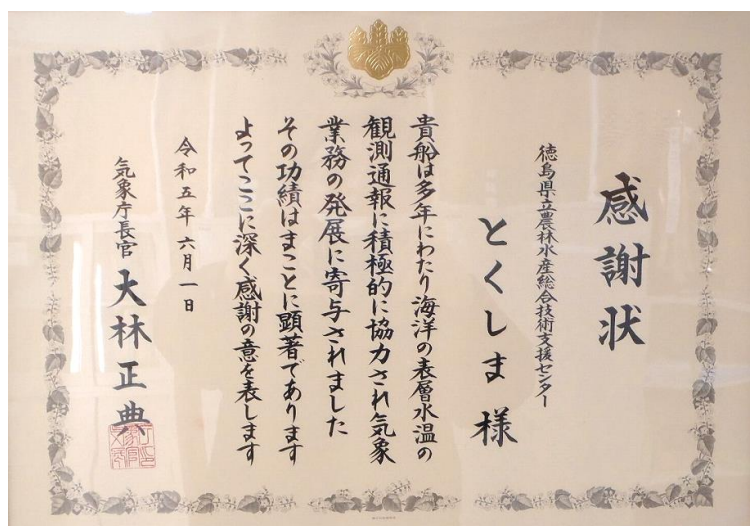


写真2. 気象庁長官からいただいた感謝状

観測通報の流れ

漁業調査船「とくしま」は、原則として毎月、播磨灘、紀伊水道、海部沿岸及び海部沖合の4海区、計49定点（図1）で海洋観測を実施し、水温、塩分等のデータを海面から海底直上または所定の水深まで連続して測定しています。

これらのデータは、水産研究課独自のデータとして蓄積し解析しますが、その日のうちにインターネットを通じて国立研究開発法人水産研究・教育機構に提供され、水産資源の評価に関する基礎資料や「改良版我が国周辺の海況予測システム（FRA-ROMS II）」等に活用されるだけでなく、国立研究開発法人水産研究・教育機構から気象庁にも配信され、天気予報や海上予報などに幅広く活用されています（図2）。

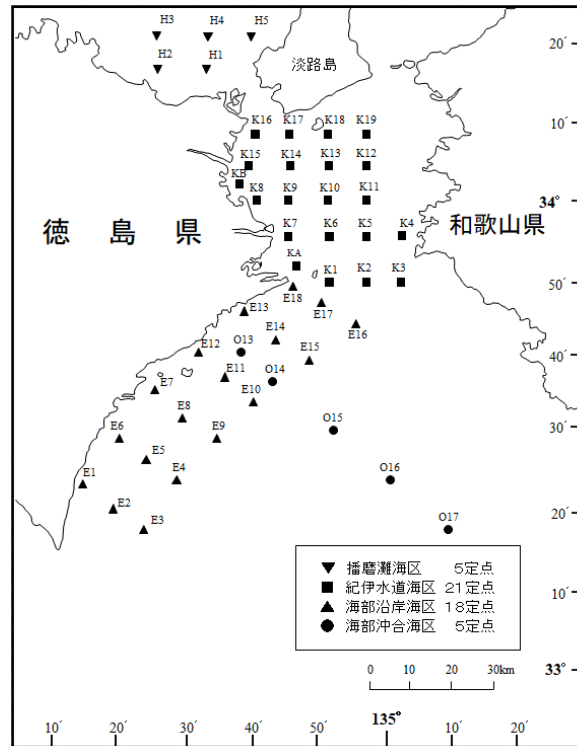


図1. 漁業調査船「とくしま」の海洋観測における調査定点

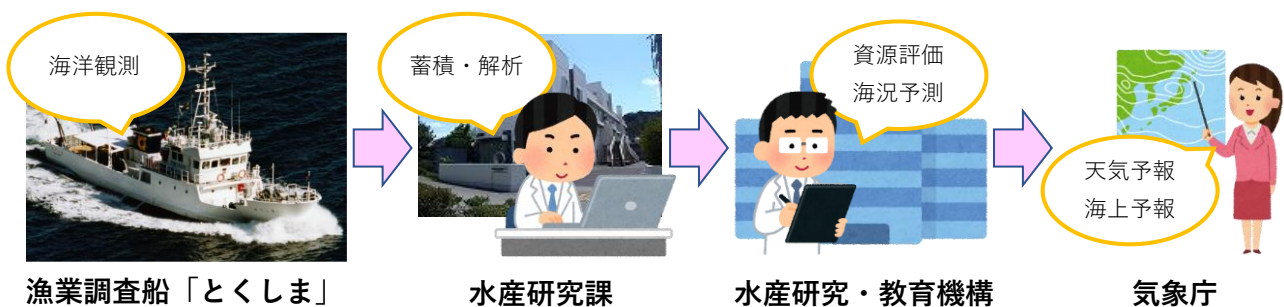


図2. 観測通報の流れ

水温、塩分等の測定方法

水温や塩分等の測定には、CTD(Conductivity Temperature Depth Profiler)という装置を使用します(写真3)。この装置を海底直上または所定の水深(最大310m)まで降ろし、水温、塩分、クロロフィル等を測定します。CTD を懸垂しているワイヤーロープの中には電気ケーブルが通って

おり、これを介して船内のパソコンまでデータが送られます。このデータを編集し、データベース化し、解析します。



写真3. フレームに取り付けられた CTD(写真下部)と採水装置

さいごに

今回、漁業調査船「とくしま」が再び表彰されたことで、海洋観測を継続することの重要性を改めて確認することができました。

漁業調査船「とくしま」は、船齢が23年を経過し、老朽化が目立ちます。これに加え、燃料の高騰等、海洋観測を継続するにあたり厳しい環境となっていますが、引き続き観測業務を継続し、徳島県の水産業に貢献できるよう努めて参ります。

参考文献

気象庁. 船舶気象観測通報に貢献した船舶の表彰. 船と海上気象 2023;67-2:6-7.